

# 変化する時代のなかで力強い成長を実現するために、 大胆な組織改革を通じて“価値創造力”を強化します。

## 中期経営計画「Gプラン2013」のもと 力強い成長軌道を描く

経済活動のグローバル化や、デジタル・ネットワーク社会の本格化、さらには資源・エネルギー問題の深刻化など、私たちを取り巻く世界は今、従来の価値観からの転換を迫られるほどの多様かつ急激な変化が続いています。

こうした局面において、コニカミノルタは変化する社会のニーズを的確に捉え、自ら培ってきた技術で応えることで、新たな成長機会を創出していきたくと考えています。そうした成長への意志と方針を明確に示したものが、2011年度からスタートした3カ年の中期経営計画「Gプラン2013」です。

この計画は、「成長の実現による規模の拡大」「『真のグローバル企業』への進化」「『コニカミノルタ』ブランドの認知度向上」を基本方針とし、最終年度となる2013年度に「売上高一兆円以上」「営業利益率8%以上」を実現することを目標としています。その達成に向けて、“Growth（成

長)”をキーワードに、「強い成長の実現」と「収益力の強化」を最大のテーマに掲げており、各事業において成長ドライバーとなる重点分野を定め、経営資源を集中することで、効率的な成長を促しています。同時に、「環境・エネルギー事業」をはじめ、これからの社会に求められる新たな事業の育成にも注力しています。

こうした方針・戦略のもと、計画初年度である2011年度には、各事業においてさまざまな施策を展開。その成果は、着実に現れはじめています。たとえばプロダクションプリント事業では、新製品の投入や販売体制の強化により、ジャンルトップを争うポジションを確保。また、ビジネスソリューション事業では、情報機器の運用管理を一括受注するOPS\*の展開を強化したことで、グローバル企業を中心とした大口顧客を多数獲得できました。

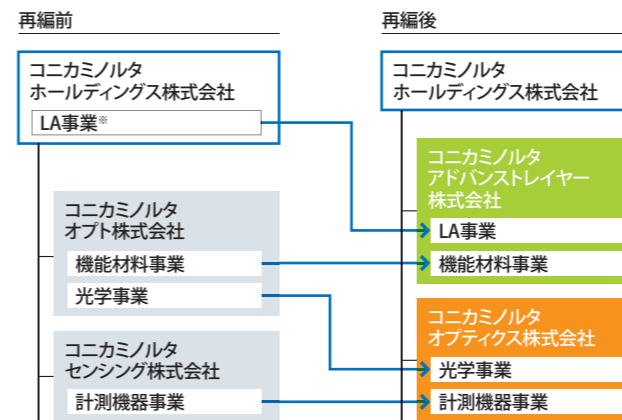
今後もこの方針・戦略のもと、堅実かつ積極的な取り組みを通じて、収益力の強化と利益規模の拡大を実現し、2013年度までの力強い“成長軌道”を描いていきます。

\* OPS (Optimized Print Services): 世界各地のオフィスで使用される情報機器の運用管理を一括受託し、ネットワーク上で集中管理することで企業内のプリント出力環境の“全体最適”を目指すサービス

トレーヤー(株)」と、光学技術を核とする「コニカミノルタ オプティクス(株)」という二つの新会社を設立しました。

両社はいずれも、事業の核となる技術リソースを一本化することで、技術開発や販売活動の効率化、新規事業推進のスピードアップを図り、新たな価値創出につなげることを目的としています。

## グループ内の組織再編(2012年4月1日実施)



※ 有機EL照明をはじめとする新機能材料の事業化推進部門

はあなたのために。」です。

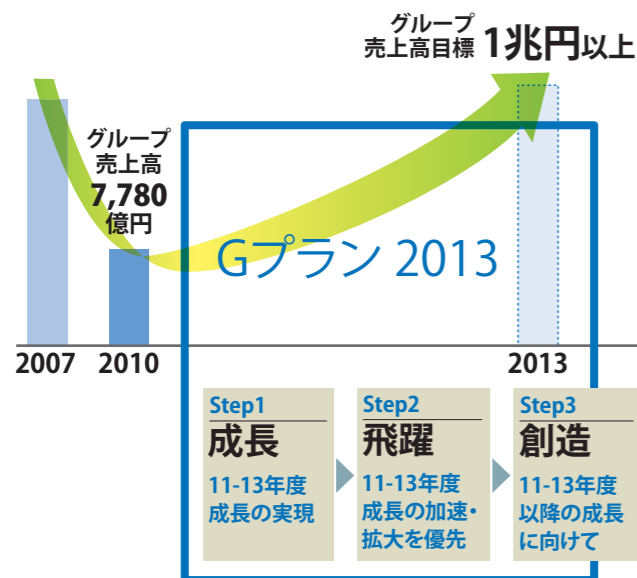
ここで言う“革新”とは、コニカミノルタグループが培ってきた問題解決力や、優れた技術力、創造性を意味します。私たちが生み出す革新で、お客様の想いや願いを一つひとつ実現し、世界のビジネスシーン、ライフシーンに感動をもたらす、新たな価値を生み出していきたくと考えています。

コニカミノルタは、世界中の人々から寄せられる願いを実現していくことで、“世の中から支持され、必要とされる企業”として、力強い成長を実現していきます。

コニカミノルタホールディングス株式会社  
代表執行役社長

松崎 正年

## 「Gプラン 2013」が描く成長軌道



## グループ全体最適の視点で 大規模な組織再編を実施

「Gプラン2013」の目標達成には、収益改善と成長のスピードをさらに加速させる必要があります。そこで、2012年4月には、成長ドライバーとなる事業の「成長スピード」と、収益改善が必要な事業の「改善スピード」を同時に加速させることを目的に、事業会社の組織再編を実施しました。これは、2003年の経営統合以来となる大きな改革であり、私たちの「成長への決意」の現れとも言えます。

具体的には、「機能材料技術」と「光学技術」という創業時からのコア技術を軸に、生産設備や人的資源などをグループ全体で最適化できるよう、各事業会社の事業構成を再編。機能材料技術を核とする「コニカミノルタアドバンス

## コミュニケーションメッセージのもと、 世界中のお客様とのコミュニケーションを深める

私たちは、お客様や社会にとって価値のある製品・サービスとは何かを追求する先に、コニカミノルタの成長があると考えています。そのためには、「お客様の求める“価値”を創造する」という私たちの意志を広く世界中に発信し、さまざまな地域、さまざまな分野のお客様とコミュニケーションを深めることが不可欠です。

お客様や社会の課題を共有し、その解決に貢献できる“アイデア(Ideas)”を、独自の技術で“カタチ(Shape)”にしていく——こうした想いを具体的に示し、その遂行を世界中のお客様に約束したものが、2011年秋に策定したコミュニケーションメッセージ「Giving Shape to Ideas:革新

